

# 見本

## ステップ5 受動態の文を訳すかんどころ

### 日英の発想の違いを確かめる

受動態、つまり受け身の文章というのは、いろいろ厄介な問題をふくんでいます。少なくとも、英文が受け身で書いてあるから訳文も受け身で書けばいい、という具合に単純に考えていたのでは、こなれた訳文づくりは望めません。

それというのも、英語と日本語では必ずしもいつも同じ場面で受け身の言い回しをするとは限らないからです。英語では受け身の表現がふつうなのに日本語では能動態で言うほうが自然だとか、その逆の例もたくさんあります。

そこで、それぞれどのようなときに受け身の表現をするのか、いわば発想の違いを確かめることが大切です。そのうえで、受け身の形の英文をどのような訳文に移し変えるのが自然かを順序立てて理解し、身につける必要があります。

今回は、そのかんどころをさぐるステップです。

### CONTENTS

5-1 受動態の3つのパターン	2
5-1-1 第3文型の文の受動態	
5-1-2 第4文型の文の受動態	
5-1-3 第5文型の文の受動態	
5-2 受動態の文を訳すための2通りの対応	3
5-2-1 能動態で訳すときのヒント	
5-2-2 受動態のままで訳すときのヒント	
5-3 必ず能動態で訳したほうが自然な表現	6
5-3-1 感情を表す動詞	
5-3-2 心理関係の動詞	
5-3-3 従事を表す動詞	
5-3-4 被害を表す動詞	
5-4 決まった訳し方のある表現	8
5-5 動作と状態の区別を明確に	9
5-6 get や have を使った受動態	10
練習問題	11
解説と訳例	12
添削課題 5	14

翻訳する上で必要な  
文法をテーマに、  
丸々テキスト1冊を  
使って細かく学習して  
いきます。

## 動作と状態の区別を明確に

これまでの訳例からすでにお気づきの方もおいでと思いますが、受け身の文を訳すときには「能動態で訳すか、受動態のまま訳すか」ということのほかに、「動作として訳すか、状態として訳すか」という点も頭においておく必要があります。もっと具体的に申しますと、「～する」、「～される」（動作）の形で訳すか、「～している」、「～されている」（状態）の形で訳すか、ということです。

たとえば She was married to Ed. という文章は「彼女はエドと結婚した」とも「彼女はエドと結婚していた」とも訳せます。そして、この文からだけでは、どちらの意味が本当なのかわかりません。しかしこれは「どちらでもいい」ということとは違います。作者は必ず、どちらかの意味で書いているのですから、訳者は前後の文脈をたよりにそれを的確に読みとって、日本語にする必要があります。決して、最初に思いついたほうで訳すとか、なんでもかんでも動作で訳してしまったりしてはいけません。

単語単位ではまったく同じでも、文脈によって訳しわけの必要があることを次の各例から読みとってください。

例 The war broke out just after they were married. (動作)

彼らが結婚した直後に戦争が起こった。

She was a widow, but is married to an architect now. (状態)

彼女は未亡人だったが、今は建築家と結婚している。

例 Our house is painted every year. (動作)

私たちは家に毎年ペンキを塗ります。

Our house is painted. (状態)

私たちの家にはペンキが塗ってあります。

例 The young plants should be covered with straw to protect them against frost. (動作)

苗木は霜から守るためにわらでおおいをすべきだ。

The breast of a thrush is covered with speckles. (状態)

つぐみの胸部は斑点でおおわれている。

説明と具体例を  
豊富に使って  
学習していきます。

5-2

The process by which the food is changed is called digestion. Liquid food is digested quickly, but solid food may remain in the stomach as long as three hours.

be changed、be called、be digested、と3つの受動態が出てきていますね。いずれもそのまま訳して間違いではありませんが、be changed は能動態で訳すと読みやすいでしょう。liquid food、solid food は、それぞれ「流動食」、「固形食」のこと。助動詞 may はここでは可能性の意味合いで訳すこと。as long as という原級比較もしっかり訳しましょう。

食物が変化する過程は消化と呼ばれる。流動食はすぐに消化されるが、固形食は三時間ものあいだ、胃に残っていることがある。

課題提出の前に  
練習問題にチャレンジ！  
練習問題には解説、  
訳例がついています。

5-3

The next meeting will be held at three o'clock next week, so please let it be known to those who

まず will be held のところが受動態ですね。ここはそのまま訳しません。なお、ここは決まった予定のことを表現しているのです。will は自然。訳すとあいまいな印象を与えてしまいます。

let it be known は be known という受け身の形をしっかり読みとること。このように let という使役動詞と受け身の目的格補語とが一緒に用いられている表現は、知られては困る内容の場合には受け身を生かして「知られてしまう」という訳語にする必要がありますが、ここでは積極的に知らせたい事柄なので let の意味のほうを強調して「知らせる」としたほうが自然になります。文脈による訳語の使い分けが必要、ということの頭の片隅にでもどうぞ覚えておいてください。

次の会合は来週日曜日の三時に行われます。そこで、そのことを今日欠席した人に知らせてください。

5-4

In former days it was generally thought that people were poor because they did not like to work. So the poor were always looked down upon everywhere in the world.

it was generally thought that のところがまず受動態ですね。itは仮主語で、意味上の主語はthat 以下。そこで、「that 以下のことと一般に思われていた」の形で解釈できれば正解です。それから were always looked down upon のところが受動態。look down upon(軽蔑する)という慣用句が受け身で用いられ、さらに always という副詞がからんだ形です。

everywhere in the world は「世界のいたるところで」という意味の副詞句です。

昔は、人が貧乏なのは働くのが好きではないせいだと一般に思われていた。そこで、貧乏人は世界のどこでも常に軽蔑されていたのである。

assignment  
添削課題 5

次の英文をそれぞれ和訳してください。

【Ⅰ】

Even the artist will be unconsciously<sup>①</sup> governed and influenced by all that his mind has inherited, by the philosophy, the view of life, the conception of the universe, which is in his race. ▫

【Ⅱ】

Man must do something which he has chosen to do without being compelled by urgent<sup>②</sup> interests or impelled by strong passion: he must feel<sup>④</sup> entertained and free of any fear or hope of serious consequences. ▫

【Ⅲ】

Most of the people who settled the United States were poor. The country they came to was a wilderness. Land had to be cleared of trees in order to make farms; mines had to be developed; houses, shops, and public buildings had to be built. Since everyone had to help build them, manual labor<sup>①</sup> was highly valued. Later, the man who achieved success by working with his head was looked up to. Now there is in America a curious combination of pride in having risen to position which does not require manual labor and in what one is able to accomplish with one's

テキストで学習した後は  
テーマ文法を含んだ課題  
に挑戦！毎回約1ページと  
なります。